

平成29年度 大田区立大森第二中学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

本年度は、各学年4学級計12学級の生徒数454名（4月現在）、相談学級2学級の規模である。教職員は54名（教員27名、事務・栄養士・用務7名、講師7名、スクールカウンセラー3名、学校管理4名、支援員6名）で構成している。
 平成16・17年度は、教育課程推進校として、小・中連携教育をテーマに小・中のスムーズな接続の研究実践を行った。その伝統を受け継ぎ、今年度も小学校3校との学校間交流を一層強力に進め、授業研究・わくわく体験・ボランティア活動等の行事に取り組み、生徒一人一人の個性と適性を把握し、伸張を図っている。
 また、学校支援地域本部により二中応援団としてさらに活動を広げている。部活動を始めとし、生徒の様々な活動の場で保護者と地域が連携し応援している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者記入欄コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身につけている」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。	4	生徒の回答は87%であった。昨年度より8%上がった。2学期に、アンケート実施時期と近かったため、生徒には特に興味・関心を高めたと考えられる。ICT機器が全てのクラスに配備され、今後も分りやすい授業を目指し、生徒の学習意欲につなげたい。	ICT機器が授業で使われることで、生徒の興味関心が高くなるなら導入した効果があったということですね。費用もかかったので有効に活用してほしい。 ○授業がよくわかることはどの子にとっても大事なことで、生徒が肯定的であることは素晴らしい。 ○子供たち自身の満足度が高いことは良い事です。 ○学力向上は学校にとっては永遠のテーマですね。頑張ってください。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身につけている」とアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2:「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身につけている」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	1:「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身につけている」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1:「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身につけている」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。			
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。	4	生徒の回答は93%であった。生徒会の清掃を通してボランティア精神を育んだ。参加率は昨年より4%上がり18%になった。また、小中合同清掃や小学生読み聞かせ等のボランティアの機会を増やし、意識向上を目指す。学校生活調査の結果やいじめ調査で、安心・安全な生活を計画・実践して、思いやりの精神を育み、豊かな人間性を身に付けると考える。	○ボランティアをする事で自己満足度を高められる方向に持っていかないと良いと思う。 ○思いやりの心を育む事は一朝一夕にできることではありませんが伝え続ける事が大切だと言えます。 ○二中の一歩いいところは、勉強でも運動でも何か一つできることが大事であるという基本が教員の心の中にある。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2:「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1:「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	1:「ボランティア活動等を通して、思いやりの精神を身につけることは大切である」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。			
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。	4	遅刻0の生徒は67%であった。挨拶運動を通し、毎日同じリズムで登校でき生活改善を徹底していく。ぎりぎり登校は教員の働きかけで昨年度より減った。保護者と共に、食育指導を啓発して、規則的な生活習慣を確立することで、自己の体力を省みらせる。	○朝の挨拶運動は継続してほしい。生徒に良い習慣になっていると思う。 ○評価が体力向上とずれている様に感じる。 ○体力向上には気力が大事である。苦手を克服している人の話を聞くと、そこががんばることができる。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3:「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」とアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2:「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」とアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1:「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。			
		規則正しい生活を目指して、遅刻ゼロを推進する。	1:「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。			
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が80%以上。	4	保護者の回答は87%であった。毎月校内美化の取組のため美化ウィークを設定し、気持ちよい環境作りを行った。また、教師用タブレットが配備され、積極的に授業で利用し、授業改善に努め生徒の意欲が高まり、学習環境が功を奏した。学習指導講師や支援員を配置し、複数の目で見守る体制で意欲を増したと思われる。	○清掃など人の役に立つ事は毎日の積み重ねが大切である。 ○教育環境の整備は社会の様子によって大きく変化するため、地域と一体となり、情報を共有化しよう。 ○ICT機器の活用については大画面活用だけでなく、デジタルやアナログ双方向の活用を最も期待している。 ○生徒の意欲を高めることこそ学力向上への最大の鍵だとすれば、左記の取組はどれも欠かすことのできない大切なものだったとわかる。引き続き取り組み、どの生徒も意欲的に活動できる学校であってほしい。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が70%以上。			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2:「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が60%以上。			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	1:「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が60%未満。			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1:「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が60%未満。			
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくりまします。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が80%以上。	4	保護者の回答は86%であった。学校緊急連絡システムの加入率が82%、情報提供に満足しているのが92%と高いので、学校行事の配信等で、多くの保護者に教育活動を理解させることができた。今後は、ホームページを毎月更新し、本校の良さを伝えていく。	○学校での子供の様子は、学校だよりとか近所での情報で理解できる。 ○情報が伝わっているのかわかりませんが、努力していることは理解できる。 ○情報の発信にはとても熱心に取り組んでいる。 ○学校が発信する情報は保護者にとって本当に大切なものです。おたより、HPの一言一句に我が子を理解する手がかりを求めて読む人もいます。学校の掲示板を通して地域の人に理解や協力を求めることも大切である。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が70%以上。			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	2:「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が60%以上。			
		学校緊急連絡システムを適宜活用して、保護者に情報を提供している。	1:「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が60%未満。			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。